

# むげんだい 大限夢

平成28年3月15日(火) vol.42

昨日、第30回目となる卒業式が行われ、205名の3年生が巣立っていきました。感極まり思わず涙を流す姿も見られましたが、何回経験しても感動的な瞬間です。

さて、1・2年生もいよいよ残すところあと10日をきりました。そろそろ進級に向けた心の準備はできていますか？良き二中の伝統を受け継いで、頑張っしてほしいと思います！

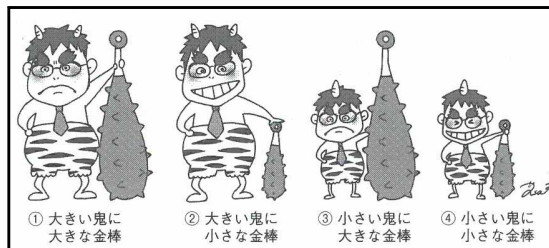


## 「鬼に金棒」

クイズです。「鬼に金棒」という言葉がありますが、右のイラストの4人の鬼のうち、一番弱い鬼はどれでしょうか？

- ① 大きい鬼に大きな金棒
- ② 大きい鬼に小さな金棒
- ③ 小さい鬼に大きな金棒
- ④ 小さい鬼に小さな金棒

「私が一番受けたいココロの授業 (比田井和孝著)」より



③と④で迷った人がいたのではないかと思います。答えは、「③小さい鬼に大きな金棒」です。この鬼は、自分の体に不釣り合いな大きな金棒をもっています。実際にケンカをしてこの金棒を振り回すところを想像してみてください。どうなりますか？敵を叩こうと思って金棒を振り上げたのに、重すぎて自分の足の上に落としてしまったり、バランスを崩して関係ないところを壊してしまったりするでしょう。

さて、これは何を表しているのでしょうか？  
「金棒」は、「**学力、知識、技術、資格、地位**」など、目に見えやすく分かりやすいものです。「鬼」は、「**人間性、あり方、目的**」で、これはじっくり話したり、その人の行動を時間をかけて観察したりしないと伝わってこないものです。つまり、この「鬼に金棒」は、**いくら学力や知識を持っていても、それを使いこなすのは結局その人自身の人間性やあり方による**ということを表しています。  
それさえしっかりしていれば、たとえ知識や技術が少なかったとしても、必ず周りの人に喜んでもらえるようなことができるはず。逆に、その目的を間違った方向に設定してしまうと、知識や技術が高まるにつれて、どんどん周りの人を不幸にする方に進んでいってしまうということです。ついつい、わかりやすい「金棒」ばかりに目をとられてしまいがちですが、目に見えない「鬼」の部分も見ようと努力、伸ばそうとする努力をしたいものですね。

## 最後の授業

熊本県の天草東高校をはじめ6校の校長を歴任し、現在、九州ルーテル学院大学客員教授を勤める大畑誠也氏のお話を紹介します。

私が考える教育の究極の目的は「**親に感謝、親を大切にすること**」です。高校生の多くは今まで自分一人の力で生きてきたように思っています。親が苦労して育ててくれたことを知りません。これは天草東高時代から継続して行ったことですが、このことを教えるのに一番ふさわしい機会として、私は卒業式の日を選びました。式の後、三年生と保護者を全員視聴覚室に集めて、私が最後の授業をするんです。そのためにはまず形から整えなくちゃいかんということで、後ろに立っている保護者を生徒の席に座らせ、生徒をその横に正座させる。そして全員に目をつぶらせてからこう話を切り出します。

「今まで、お父さん、お母さんにいろんなことをしてもらったり、心配をかけたりにしたろう。それを思い出してみろ。交通事故に遭って入院した者もいれば、親子喧嘩をしたり、こんな飯は食えんとお母さんの弁当に文句を言った者もおる…」そういう話をしているうちに涙を流す者が出てきます。

「おまえたちを高校へ行かせるために、ご両親は一所懸命働いて、その金ばたくさん使いなされたぞ。そういうことを考えたことがあったか。学校の先生にお世話になりましたと言う前に、まず親に感謝しろ。そして、心の底から親に迷惑を掛けた、苦労を掛けたと思う者は今、お父さんお母さんが隣におられるから、その手ば握ってみろ」と言うわけです。

すると一人、二人と繋いでいって、最後には全員が手を繋ぐ。私はそれを確認した上で、こう声を張り上げます。  
**「その手がねえ！18年間おまえたちを育ててきた手だ。分かるか。……親の手をね、これまで握ったことがあったか？おまえたちが生まれた頃は、柔らかい手をしておられた。今、ゴツゴツとした手をしておられるのは、おまえたちを育てるために大変な苦労をしてこられたからたい。それを忘れるな」**

その上でさらに、「18年間振り返って、親に本当にすまんかったから感謝すると思う者は、今一度強く手を握れ」と言うと、あちこちから嗚咽が聞こえてくる。私は「よし、目を開けろ。分かったや？私が教えたかったのはここたい。親に感謝、親を大切に授業、終わり」と言って部屋を出ていく。振り返ると親と子が抱き合っ泣き流しているんです。

『致知』2011年1月号特集「盛衰の原理」より

### ★キラキラ輝く中学生★

忘れてはいけないのは、その毎日を支えてくれた人がいるということです。その支えに、本当の意味で気づくのはずっと先の「同じ立場に立ったとき」かもしれませんが、感謝することと想像することはできます。不器用でも、照れくさくても、ケンカばかりしていても、「ありがとう」の気持ちは伝えましようね♪

先日、「二中ライブラリー」に年間の図書室の本を借りた人ランキングが掲載されていました。1位の人は、なんと200冊を超える本を借りているとのこと。凄い読書量ですね。きつと歯を磨くことと同じように、習慣化されているのでしょうか。ある人は、「**本を読むことはお風呂に入ることと同じ効果がある**」と言っています。1日の疲れを癒やしてくれる効果があるとのこと。